磐安 阿蘭陀本草和解

共二

和書門
類 一七五八六 號 二一二 函 六 架 二 冊

172
内閣文庫
和書 類 一七五八六 號 二 冊 九函 一〇 架

内閣文庫
番號 和 17586
冊數 2 (1)
函號 196 172

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館 National Archives of Japan

三十二 ミリンカ　六十二 白屈菜　八十七 木綿
百四十四 地楡　百四十三 王不留行　百六十一 蛇含草
百八十六 景天　二百卅五 アラセイトウ　五百五十六 木香
五百九十六 蓖麻　五百九十八 續随子　六百六十八 白薇
七百五十二 曼陀羅華　七百七十一 日陰ノ葛　八百五十一 胡麻
八百五十三 ゴマミシ　九百二十七 川骨

癸亥
阿蘭陀本草和解

三十二

ヲルムコロイト　ヲランダ名

セーメンセトワーリア　ラテン名　藥店名ミリンカ

ヲルムハ虫ヲ云コロイトハ藥ヲ云專ラ虫ヲ殺ス故名ト云

一小兒ノ虫生テ腹痛スルニ大黄ト當分細末シ蜂蜜ニ練合セ用ユレハ虫ヲ下シテヨシ

六十二

ステンケンテゴウ　ヲランタ名

ゲリトーニヨム　ラテン名　白屈菜（クサノワウ）

一葉茎ニ黄汁アリ絞リ面ニヌレハ皮膚ヲヨクス
一根ヲ細ニ搗砕キ酒又白湯ニテ用ユレハ黄
疸ヲ治ス
一又歯ノ痛ニ根ヲクハヘテヨシ
一花ヲ蜂蜜ニ煎シ眼ノ痛ニ附テヨシ

八十七

ボウムカツトン　ヲランタ名　木綿（キワタ）
コーシビヨム　ラテン名

一綿ヲ焼灰ニシテ金瘡ニ附テ血ヲ止ルニヨシ
一實ヲ搗砕キ粉ニシ湯ニテ用レハ咳嗽ヲ治ス
一實ヲ粉ニシ毎夜用レハ陽ヲ起シ腎ヲ益ス
一實ノ油ヲ汗ナヽズニ摺ヌリテヨシ

百四十四

ペンピネル　ヲランタ名　地楡（ワレモカウ）
サクシフラアガ　ラテン名
性冷澁

一生葉ノ香ヨシ酒ニ入用ユ乾ケハ香失ス
一生葉ヲ搗テ金瘡ニ附テヨシ
一葉ヲ干シ粉ニシ痢病ニ用テヨシ
一又経水多キニモ右ニ同ク用テヨシ
一葉ヲ酒ニ半日ホド漬シ飲テ暑氣ヲ解ス

百四十二
ロヲトドヲルワス　ヲランダ名
ハカアリヤ　ラテン名
王不留行

一根葉共ニ搗砕キ汁ヲトリ金瘡ニ附テヨシ
一實花ヲ煎シ腹痛ニ用テヨシ
一小児ノ臍腫出タルニ花實ヲ搗砕キ麦粉ヲ
一交合セ附テヨシ
一咽喉ノ腫タルニモ上法ノ如ク附テヨシ

百六十一
ヘイフヘンゲルコロイト　ヲランダ名
キウヱンクウヱホシリヨム　ラテン名
ヤラスナ
蛇含草

一根ヲ水ニ煎シ歯ノ痛ニ含ミテヨシ

一又口中ニ穴アキタルニモ含ミテヨシ

一又喉ノ痛ニモ含テヨシ

一又痢病ニ用テヨシ

一根ヲ搗碎キ汁ヲシトリ諸毒ニ中リタルニ
用テヨシ

一根ヲ酢ニ煎シ木綿ニ漬シ堅キ腫物ニ度々
附レハ和ク

一葉ヲ水ニ煎シ黄疸ニ用テヨシ度々用ユレハ
十四五日ニテ全ク治ス

一葉ヲ水ニ煎シ蜂蜜ヲ入胡椒ヲ加ヘ飲ハ
能熱ヲ解ス

百八十六

スメールウシルトル　ヲランタ名

景天（チトメクサ）

テレヒヨン　ラテン名

一花實共酢ニ漬シ面ノホクロニ附テヨシ

一金瘡ニモ前法ノ如ク附テヨシ、

二百三十五　二百三十八モ同ト云

ヒヨリノイル　ヲランダ名

ロイコシヨレ　ラテン名

アラセイトウ

一花ヲ水ニ煎シ息ギレニ用テヨシ

一花ヲ水煎シ婦人經水滞ルニ用テヨシ

一又小便不通ニモ用テヨシ

一花ヲ酢ニ漬シ痢病ニ用テヨシ

五百五十六

アラントシルトル　ヲランダ名

ラアデキスヱヽヌラカハアナ　ラテン名

木香

性温

一根ヲ砂糖漬ニシ胸ノコハリ息キレスルニ用テヨシ

一又咳嗽ニモ用テヨシ

一根ヲ搗碎キ砂糖當分合シ右ノ病ニ用テモヨシ

一根ヲ水煎シ虫腹痛ニ用テヨシ

一生根ヲ歯ノ動ニ嚙テ堅クナル
一根ヲ細ニ搗碎キテリアーカト交合諸毒ヲ觧ス
一根ヲ搗碎キ古キ疵ノ愈カタキニ附テヨシ
一根ヲ細ニ碎キ吐血ニ用テヨシ
一根ヲウヱン酒ニ二日ホト漬シ疝氣ニ用テヨシ

五百九十六
モルレンコロイト　ヲランタ名
リチイノス　ラテン名
蓖麻（トウゴマ）

性温
一實ヲ細ニ搗碎キ服スレハ腹中ノ悪物ヲ吐ス
一生ノ實ヲ汗ナマヅニ附テヨシ
一根ヲ牛乳ニテ煎シ黄疸ニ用テヨシ
一又水腫ニモ用テヨシ
一實ノ油ヲ筋ノツマリタルニ塗テヨシ

五百九十八　六百十一ニテ同類ニテ功用同シト云
ヲルフスメルク　ヲランタ名
テーテイマルス　ラテン名
續随子

性温　但性ツヨク胃ヲ傷ルユヘ服薬ニ用ヒズト云
一葉茎ニ白汁アリ腹ノコハリニ塗テヨシ
一此汁ヲ二滴ホド白湯ニ入呑ハ腹中ヲ瀉ス
一此汁ヲ汗ナヽズアザ等ニ塗テヨシ
一此根葉ヲ搗砕キ毒流ニスレハ魚酔テ浮ム

六百六十八
スワールヱシルトル　ヲランダ名　白薇（フナハラ）
性温

一根ヲ搗砕キ酒ニテ用腹痛ニヨシ
一又毒ニ中タルニ用テヨシ
一葉ヲ搗砕キ女人胸腫ルニ附テヨシ
一又一切ノ腫物ニ附テヨシ

七百五十二
ドウルンアツプル　ヲランダ名　曼陀羅華（チヤウセンアサガホ）
スラモーニヤ　ラテン名
性冷　花ノ香百合ニ似テ悪シ此氣ヲ嗅ハ頭痛ス

国立公文書館 National Archives of Japan

一實ヲ搗砕キ白湯ニテ用ユレハ吐逆シテ後
快ク眠ル但能人ヲ睡ラシムルモノナリ

七百七十一

アールトモス　　ヲランタ名

ペスルウビイ　　ラテン名　　日陰ノ葛ラ

性温

一此草ノ汁ヲ呑ハ能小便ヲ通ス

一又石麻ニモ用テヨシ

一ウヱン酒ニテ煎シ手拭ニ浸シ足ノ不叶ニ附テヨシ

一酒ノ中ヘ入置ハ酒ノ味ヲ不損

八百五十一

セサアモム　　ラテン名　　胡麻

性温

一葉ヲ搗砕キ筋ノ堅マリ瘤ノ如ナルニ附テヨシ

一葉ヲウヱン酒ニテ煎シ手拭ニ浸シ頭痛スルニ
頭ノ上ニ置ハ速ニ上ム

一此實ノ油ヲ木綿ノホツシ又ハ綿ニ浸シ耳ノ
痛ニ指入レハ痛止ム

八百五十三

フラスコロイト　シラシタ名

リイノム　ラテン名

薬店ノ名　ゴマニン

一實ヲ搗碎キ小麦粉ト蜂蜜トニ交合痢病ニ
用テヨシ

一實ヲ牛乳ト麦粉ト子リ合セ腫物ニ附テヨシ

一實ヲ能煎シ水ヲステテホルトガル油ニ交合セ大
便不通時肛門ニ指テヨシ

一此油ヲ油繪ニ用ユ但油ノ取様日本ノ取様ニ同シ

九百二十七八

プロンプ　シラシタ名

ミシヘヤ　ラテン名

川骨（カウホ子）

性温

一生根ヲ痢病ニ用テヨシ

一葉ヲ細ニ擣碎キ金瘡ニ附テ血ヲ止ル

一生根ヲ婦人經水多キニ用テヨシ

一花ヲ細ニ擣碎キ頭痛ニ面ニ塗ハ速ニ止ム

野呂元丈和解

寛保三癸亥年三月

阿蘭陀外科　ムスクルス

大通事　加福喜藏

小通事　吉雄定次郎

阿蘭陀禽獸蟲魚圖和解

一此書ノ名イーヨンストンストト云即作者ノ名ヲ直ニ書ノ名トス八十一年前ノ板行ナリト云

但シ阿蘭陀國開闢ヨリ今年マデ五千七百四十五年其ウチ中興ヨリ千七百四十一年トタテ此書千六百六十年ノ時ノ板行ナレハ今年マデ八十一年ニナルト即時ニ荅フ

一此書菜物ノ為ニ作タル本草ニアラズ故ニ切能ノコト一切ナシタヾ形狀バカリヲ著ス文字多クハ

ラテンノ躰ニテ解シカタシト云

一 巻初ノ表紙付ニ文字アリ七十七年前二月廿八日ヘシデレキイシテイキトニカビタン江戸ヘ上ルト云

一 畫ノ所ハ銅板ナリ文字ノ所ハ鉛ナリ鐵ニテモ彫レ氏銹(サビ)出テ不宜ユヘ近ロハミナ鉛錫ヲ用ト云

一

一 解トハ書面ノ和解ニテ御座候

一 説トハ阿蘭陀人ノ物語ニテ御座候

一 羅語トハラテン詞ニテ御座候此躰ハ文字ノ書ヤウ阿蘭陀ト違候テ讀カ子又ヨメ候テモ義理通シ不申候由具内醫方ニカヽリ候事ハ外科ハ大概解シ申候由此文躰ハ横ニ文字ノ通スル國ハ何レノ國ニテモ學者ハ通シ候ヨシ雅言(ミヤココトバ)ト相聞ヘ申候

一 綴ヘハミイラヲ唐ニテ木乃伊ト申ス是ラテン

語ノモミイト云シ移シタルモノト可存又阿蘭陀
ニテハメンスフライシト云直ニ人肉ト云コトノヨシ俗
名ノ様ニ相聞ヘ申候
一 一本トハ此御本ト圖ハ同事ニテ文字異ナル本
有之候而持主任為見申候不板行年数少シ先ニテ
一 文字皆ラテンノ躰ニテ一向解シ不申由申候二本共ニ
一 圖説ノ紙葉前後入違有之禽獣虫魚ノ部
入亂タルヤウニ相見ヘ申候

一 驢　エーゼル　但御附紙ニイーヅルトアリ
謹案スルニ此圖一本ニ馬ノ後騾ノ前ニアリ
一 馬　パールト
一 騾　モイロエーゼル　但御附紙ニシウトイーヅルト有
説ニ常ノ馬ト驢ト交リテ生スルモノト云
一 野馬　エルトパールト
一 野驢　シウトエーゼル
解ニ毛色白ク一角アリト形状ノコバカリ有テ

国立公文書館
National Archives of Japan

一象
角ヲ薬用ニスルコトミヘズト云
解ニ鼻ノ下ヨリ打廻シタル長サ一丈九尺ト云
ゾーリハン
説ニ阿蘭陀人ノ行國々ニ多有之肉ヲ食フ所
ナシ又皮骨糞等ヲ薬用ニスルコトヲ不聞
牙ハ。イホウルト。ヤいら薬用ニスト云

一牛
クウベイス

一騱
インホウルン

謹案ニ爾雅ニ云ク騱ハ如ク馬ノ一角ト故ニ今據テ此圖ニ用ユ騱ノ字ヲ
説ニ此解書面ニ見ヘズト云一本ヲ見セモニラテン
語ニテ不通ト云又此類ノ一角アル條ヲ問フニ角
ヲ薬用ニスルコトミヘスト云此方ニテウニカウルト云ハ
ホルトギスノ語ニウンハカウロノト云ヲ訛リタルヨシ

一水牛
アフリカボウフル

一山羊
ステエンボク
説ニ ステエンハ石ノコトボクハヤギノコトナリト云

国立公文書館
National Archives of Japan

一 雌羊 ゲイテ

説ニ メヤギノコナリ乳汁ヲトリ用ト云

一 羊 シヽカブ

一 麋 ハルトベイスト

説ニ鹿ノ類ノ惣名ナリ佛附紙ニハルトベーストヽ
有モノハシドロキハルトベーストヽアリメツラシキ麋ト云
コトナリト云

一 犀 レノストロ

解ニ目ノ間ヨリ尾マデ大サ一丈一尺ト云灰色ニシテ
甲アリ具足ヲ着タル如ク又色黒ク象ニ似タルモ
有ト云水ニ住ムモノアリト云文ナシ

一 駝 カメイル

説ニ種類多シボントカメイルハマダラト云コナリ又
形チ駝ニ似テ背ニ肉峯ナキモノヲドロムダレー

一 家猪 ハルコス

ストヽ云コレモ点一種ニシテ類多シト云

一野猪　ヱルテハルコス

一鳥頭獣身ノ一種　ゲレイピプホウゴル

説ニ　ケレイピプハツカムコホウゴルハ鳥ノコナリケ様ノ
モノ未見ト云

一獅　レーウ　ヲビ、
　　　レーヱン　メビ、

解ニ生レダチヨリ養ヘドモ飢レハ人ヲ食フ甚猛
ナル説多シ諸ノ猛獣ヲトリ食フコト至テ易シ
千万人引鉄炮ニテ逐ヘドモカツテ恐ルヽケシキナシ

寐ルニマブタ不合生レツキテマブタミヂカクシテ
眼ヲ閉ルコトナシト云

説ニ阿蘭陀本國ニテハ見タルモノアリト云

一豹　ロイボルト

一虎　テイゲル

一熊　ベール

一狼　ボルフ

一狐　ヘルポス

一　狐　説ニ狐ヲポストト云是モ同物ナラントト云　レイフト

一　猿　アープ

一　鼠　ロット

一　獺　ウットル

一　豪猪(ナミアラシ)　ヱイワルハルコ

一　鼬鼠(イタチ)　アーセル

一　兎　ハアズ

一　猫　カット

一　靈猫(レヤウネコ)　ムスクリヤアトカット

一　狸　ダス

一　狗　ホント

一　麝　シトシダア　四羅語
謹案ルニ圖ニ陰嚢茎ヲ載ス射香ノ如シ又本草ニ南中ノ靈猫嚢其氣如麝トアリ是ナルカ決シ難シ

解ニアメリカノムスクリヤアトカツトト云是レ麝
香ナルヤ否ヲ不知ト云

一 鼉龍 コロポデル

説ニ大ナルカイマントト云コトナリ此モノ水ニスミテ
甚人ニ害ヲナスモノナリ咬嚙吧ニ多シ大ナルハ
長サ三間程アリト云

一 蛙 キクホルス

一 蜥蜴（トカケ） ハアガデス

一 龜 テストードタアトス 羅語

一 瑇瑁 テストウドモリイナ 羅語
レーイルシケルパツト 阿蘭

一 龞 テストウドアクハテカ 羅語

説ニテストードハラテン龜ノ惣名ニシケルパツトハ阿蘭陀ノ龜
ノ類ノコトト云

一 魚ヘビ

一 ウキヘビ モシラミイトルヘビ

解ニ一名トルピイナ頭大ニ尾丸クノ口海ニスムト云

肉ヲ食フコト功能ノヿミヘズト云

一膃肭獸　ゼイホント

解ニゼイハ海ノヿホントハ狗ノヿ即海狗也皮ヲ用ユルノミ
肉ヲ食ヒ陰茎等ヲ薬用ニスルヿミヘズト云

一ワルロス

説ニ肉ヲ食フコトヲ不聞牙ヲシトリ小刀ノ柄ナドニスルト云
謹案ルニ庚申ノ四月築前ノ海ヨリ上リタルヨシ世上流布
セシリシコシ魚ト云モノヽ図稍コレニ似タリ

一カヂキトヲシ　ナルワル　羅語

解ニ魚ノ長サ一丈八尺堅キ嘴アリウニコルノ如シ
鯨ノ如クシホフキアリト云
説ニ前年阿蘭陀舟ヲ洋中ニテ突通スモノアリ
海水一スヂ血色トナル甚恐テ石火矢ヲ打テ過ル
本國ニ帰テ後大魚ノ嘴舟ニ残ルユヘ其所以ヲ
知ル此魚ナルヘシト云
謹テ案ルニコレ房州ニテカヂキトヲシ熊野ニテ

ナイラギト云魚ナルベシ

一海鰌　ワルヘシ

解ニ長サ百九十尋ト云一尋ハ六尺ナリト云

說ニ阿蘭陀人グルウランドと云嶋へ行テ日本ノ

五月頃ヨリ三ケ月程逗留シ取帰リ油ニシホル

肉ヲ食フコトナシ又タケリ糞等ヲ薬用ニセズ

トヱ

一龍涎香(クジラノフン)　ヲパラカンフルト云テ薬用ニス何ヨリ出ル

トヱコトシ不知ト云

一人魚　アントラホウモルススステラタル　羅語

說ニ阿蘭陀ノ名メラメントヱ水ノ女ト云フナリ

ホルトギスノ名ペイシモレルト云コレモ水ノ女ト云

フナリト云

一海鷂魚(エイ)　ホト

一鰻鱺(ウナギ)　アール

一八目鰻　子ーケンシーブ

説ニ子イーケンハ九ツト云フシーブハ目ト云フナリ

一 烏賊魚(イカ)　ゼイカツト

説ニ此類章魚(タコ)モ烏賊モ凡テゼイカツトヽ云

一 寄居虫(ガウナ)　カンセラス　羅語

説ニ阿蘭人ハ殻(カラ)アルモノハ凡テシコロツプヘストヱ

一 蝦　ケレエフト

一 蟹　カラツプヘ

一 海盤車(タコノマクラ)　スタル　羅語

一 石蜐(カメノテ)　ハラルテ　羅語

一 海月(タイラキ)　ペンナレ　同

一 海扇(ヒヤクシカヒ)　アンヘレス　同

一 鸚鵡螺(ツコフ子)　ナウトロス　同

一 鱟　カンセルモレニス　同

一 海馬　ヘホカンプス　同

一 鷲　アヽルレ

一 蝙蝠(カウモリ)　フレイルモイシ　阿蘭陀
　　　　　　　　スヘキモウス　ホウゴドイチ

一 孔雀　パアウ

一 鳳鳥　パラデイーヒホウゲル
説ニ鳳タルヲ見タルノヲ何レニ住何ヲ食フコトヲ不知ト云

一 雛　フウヒドル

一 駝鳥　カヅワール

一 蜜　ヘイコロク
説ニ本國多ク有ト云

一 蜻蛉　ロヒボウツク

一 蜘蛛　スペ子コプ

一 蚕　セイシラム

一 斑猫　スパンスフリナキ　阿蘭名
カンタリデス　羅テン

一 蠍　スコロヒヨヒ　阿蘭
スコロヒヨウ子ス　羅語
謹案ニ全蝎ハ要用ノ薬品此邦ニテ未見申ス不
ジヤムヒト申スも阿蘭陀舟ニ多ク有テ出嶋出入

一 蛞蝓（ナメクヂリ）　スラカ
モノイワレモ覚居申候

一 蛓（ケムシ） ロヒス

一 蛇 スランガ

説 近ロ持渡ル番菜スランガステーンと云ハ蛇石ト云コノヨシ東ノ方ノ国ヨリ出テ稀ナルモノト云

一 蝮蛇 スランカアルドロウ

説ニ人ヲ咬ム毒アルモノト云

一 魚石 ゼノーゲール 羅語

謹案ルニ昔ヨリ番菜ノセイチクルハ海中ノ馬ノ骨ト云或ハ石モチノ頭ノ石ヲモ云今此国ニヨリテ見レハ西国ニテ小判ザメト云モノナリ

一 螟蛉 トイーミユント ヘーレン 阿蘭

説ニ トイーミユンハ千セ ヘーレンハ足ナリ

對談ノ阿蘭陀人

加比旦　ヤアコツプハンテンワーイ

書記　ハンデンブリイル

外科　ヒリツプピイトルムスクルス

大通事　吉雄幸三郎

寛保元年辛酉三月

野呂元丈

百四十一 薺
百五十六 藻
百六十六 ルウタ

四百十 カモメル
七百二十五 烏頭
七百七十 サルシカセ

千二百八十七 ホルトガル

丙寅

阿蘭陀本草和解

百四十一

パストーリヤ　ラテン名

ホルステンスコロイト　ヲランダ名

薺（ナツナ）

性冷

一鼻血止サルニ花葉共ニ煎シ用ユ又生ニテ絞リ汁ヲ呑モヨシ

一打身ノ腫タルニ搗クタキ糊ニ交附テヨシ

一又一切腫物ニ附テヨシ

一鼻血ニ葉ヲモミ鼻ノ中ニサシ入テヨシ

一月水滞タルニ葉花共ニ煎シ腰湯シテヨシ

一筋骨ノ痛ニ葉ノ絞リ汁ニホルトカルノ油ヲ交付テヨシ

百五十六

トイレユントコノシプ　シランダ名

ホーリホーノレーヽス　ラテン名　水藻

性冷

一吐血ニ此草ヲ絞リ汁ヲ呑テヨシ

一痢病ニ絞リ汁ヲ呑テヨシ

一小便不通ニ絞リ汁ヲ呑テヨシ

一毒蛇ノ咬タルニ此汁ヲ酒ニ入呑テヨシ

一熱ノ出ル前ニ此汁ヲ用レハ熱発セス

一月水ノ時腹痛ニ此汁ヲ帛ニ浸シ下部ヲ浴テヨシ

一耳痛或ハ耳聾ニ此汁ヲ二三滴シタテ入テヨシ

一足ヲ打腫タルニ此汁ヲ附テヨシ

一女ノ乳ノ痛ニ此汁ニホルトカルノ油又ハボウトルヲ交付テヨシ

一石淋ニ水ニ煎シ用テヨシ

一歯齦ノ痛ニ汁ヲ付テヨシ

百六十六

ユンロイト　シランダ名

ルウタ　ラテン名　ヘンルーダ　シヽグサ

一月水不通ニ葉花ヲ干シ煎シ用テヨシ

一痢病ニ酒ニ煎シ用テヨシ

一毒ヲ消ニ實ヲ用テヨシ
一毒虫ノ螫タルニ葉ヲ揉附テヨシ
一此草ノ汁薬用ニ少ク用テヨシ多ク用レハ腎ヲ耗ス
一腹痛又虫痛ニ葉花ヲ水煎シ用テヨシ
一又水腫ニ右ノ如シ用テヨシ
一面皰ノ類ニ生葉ニ塩ヲ入モミ附テヨシ
一疝氣ニ此實ノ油ヲ用テヨシ
一胞衣不下ニ此草ノ汁ヲ酒ニ入用テヨシ
一小便頻数ナルニ此實ヲ細末シ用テヨシ
一此草ノ汁蛬グキ腫タルニ用テヨシ

四百十

カメレ　ヲランダ名

カモメル　ラテン名

一小便不通ニ花葉共ニ干シ水ニ煎シ用テヨシ
一腹痛ニ上法ノ如クシ用テヨシ
一此油ヲ遠ミチスルニ足ニヌリテヨシ
一瘧疾ニ此葉ヲ石臼ニテ搗汁ヲ呑テヨシ
一頭痛ニ生葉ヲ煎シ其氣ヲ嗅テヨシ
一蛬クキノ痛ニ花葉ヲ揉スリ付テヨシ
一打目ニ此花葉ヲ搗クタキ附上ニ紙ヲ蓋ノリ付ミシテヨシ

一胸痛或ハ酒後ムネイタムニ此葉ヲ煎シ其汁ニ砂糖ヲ
入用テヨシ

七百二十五

フラワシルスツルトル　シラシタ名　烏頭

ナツペルス　ラテイン

性熱

一根葉共ニ大毒アリ食スレハ人ヲ殺ス

一根ヲ搗キサツプトシ但シ汁ノコト也矢シリニヌリテ人ニ中レハ死ス

但シ一切薬用ニセズ賣買モ禁ズ

七百七十

モス　シランタ名　サルツガセ

モスカスアルボーリヨス　ラテン

性冷

一食傷吐逆ニ酒ニ煎シ用テヨシ

一月水滞タルニ水煎シ浴シテヨシ

一小便不通ニ干シ粉ニシ五分ホド酒ニ入呑テヨシ

一頭痛ニ生ニテ十四日ホドホルトガルノ油ニ浸シ額ニ附
テヨシ

千二百八十七

ラレイフボーム　ポルトガル

シリヤサテハ　ラランタ名　ラテイーン名

性温

一吐逆ニ實ヲ塩漬ニシテ食テヨシ

一食ノ滞タルニ右ノ實ヲ八九粒食テヨシ

一葉ヲ搗テ汗疿ニヌリテヨシ

一歯クキノ痛ニ葉ヲ咬テヨシ

一腹中ノ瀉ルニ葉ノ汁ヲ用テヨシ

一此木ヲ火ニ燒テ汁ヲ取リ癜風ニ附テヨシ

一此實ノ油ヲ髪ノ油ニ用テ白髪ヲ生セス

一此油ヲ火傷ニ附テヨシ

此外諸膏薬食料ニ用テ功多シト云

延享三丙寅三月

野呂元丈和解

阿蘭陀外科ムスクルス

大通事　名村勝右衛門

小通事　西吉太夫

国立公文書館
National Archives of Japan

四十一 艾　百廿九 益母草　百七十一 ダヅヽ
二百廿四 蕁麻　四百六 紅黄艸　六百六十 蜀羊泉
六百九十八 毛莨　六百九十九 石龍芮　七百九十四 大麦
九百廿一 睡菜　九百三十四 田ゼリ　千五十 蛇苺
千八十七 芥菜　千三百廿八 黒ツヾ　千二百七十一 無花果
千四十一 南瓜

丁卯

阿蘭陀本草和解

四十一

一アルテミシヤ　ラテン

一ベイフート　シテンタ　艾ヨモギ

性温

一花葉𪜈ニ水煎シ用レハ月水滞タルヲ通ス

一又水ヲトリ用ルモ功同シ

一葉ヲ擣毒虫ノ螫タルニ塗テヨシ

一葉ヲ水ニ煎シ浴スレハ疲労ヲ休ム

百廿九

一ハルツゲスパン　シランダ　メハジキ

一カルデヤーカ　ラテン　益母草

性大温

一花葉共ニ水煎シ服スレハ麻痺ヲ治ス

一又腹痛ニ用テヨシ

一葉花茎トモニ乾シ末シテ用レハ小便不通ニヨシ

一又月水滞タルニ用テヨシ

一又金瘡ニ附テ血ヲ止ル

一葉ヲ生ニテ絞リ汁ヲ服シテ積氣ヲ治ス

一此花ヲ植ヲケハ蜜蜂ノニデタル時自ラ帰ル

百七十一

一シカービユース　シランタ

一シカーヒヨーサ　ラテン

性温　ダヅマ

一花葉共ニ水ト蜜トニテ煎シ服シテ痰嗽ヲ治ス

一花葉ヲ水煎シ服スレハ小瘡（ヒゼン）ニヨシ
一又同法ニテ汗ヲ發ス
一又毒虫ノ螫タルニ附テヨシ

二百廿四

一ブラントネートル　ラランタ　蕁麻（イラクサ）
一ヘルハシルデカ　ラテン
一葉ヲ煮テ汁ヲ服シテ石痳ニヨシ
一葉ヲ大麦ニ交煮汁ヲ服シテ胸ノ痛ニヨシ

一葉ノ絞リ汁ヲ鼻ニ入テ鼻血ヲ止ム根ノ汁モ同シ
一又葉ノ汁ヲ舌ニトギ含テヨシ或ハ重舌又咽喉ノ
痛ニ用テヨシ
一實ヲ搗碎キ酒ニテ用レハ精ヲ益シ陽ヲ起ス
一實ヲ搗碎キ蜜ニ和シ胸ノカスルニ用テヨシ
一莖葉共ニ燒灰ニシ久瘡（フルキカサ）ニ附テ悪肉ヲ去リ愈ス

四百六

一テヱーニユスブルム　ラランタ　紅黄草
一ガルタアフリカナ　ラテン

一花葉ヲ擣エキトト云病ニ附テヨシ 手足ナヘテ痺氣ノ類ナリ

一實又花ヲ麦粉沙糖ニ擣交セ鼠猫ノ咬タルニ附テヨシ

一花ヲ眩運ニ嗅テヨシ

六百六十

一アルフスランカ ヲランダ

一トルカアマアラ ラテン 蜀羊泉

一葉ヲ水煎シ服シテ黄疸ヲ治ス

一葉ヲ擣汁シトリ陸撲打身ノ腹痛ニ用テヨシ

一根ヲ水煎シ服シテ水腫ニヨシ

一葉ヲ擣キ腫物ニ塗レハ即時ニ治ス

六百九十八

一ボートルブロム ヲランダ タヽラビ 毛莨

一ラヌンクルス ラテン

花 性温

一腫物ノ愈テ後痕色ツキ滅カタキニ此花ヲモミ附レハ膚色ニナル根葉モ又ヨシ

一根葉ヲ搗碎キ腫物ニ附レハ和ニナリ膿ヤスシ
一凍瘡(シモヤケ)ニ根葉ヲ煎シ洗テヨシ
一花ノ水ヲランビキニテトリ血熱ノ症ニ飲テヨシ
一此水ヲ木綿ノホウシニ塗痔ニ附テヨシ軽キハ根治ス
一根葉花共ニ揉ミ脉ツボニ附テ瘧ヲ落ス
一此草ヲ牛ニ飼ハ乳汁ヲ多ク出ス

六百九十九
一ワートルハーンフウト　ヲランダ　石龍芮(タガラシ)
一白禿(シラクモ)ニ葉花茎共ニ附レハクエテトレ愈ル但シ好肉ヲ損ス
一黒痣(ホクロ)ノ類ニ此草ノ汁ヲ附テ治ス
一此草ノ煎シ汁ヲ髪ノ抜ルニ附レハ止ム但シ暫ノ間ニ
洗落スヘシ久ク附ケハ却テ髪ヲ抜盡ス膚ヲ損スル故ナリ

七百九十四
一ロームスタル　ヲランダ　大麦
一テレイテイコムテイーヒム　ラテン
一腫物ノムシ薬ニ此粉ヲ他薬ニ入用ユ

一腫物ヲ膿マスルニ此粉ヲ蜜ニ和附テヨシ

九百廿一

一ワートルカラーヘレ　シランタ

一ハーゼリユスヒルチニユス　ラテン

睡菜（カラシモダカ）

一實ヲ細末シ湯ト蜜トニ交セ飲ハ咳嗽ヲ止ム

一根ヲ水ニ煎シ飲ハ小便ヲ能通ス水腫ニヨシ

九百三十四

一ワートルユツプ　シランタ

田ゼリ

性温

一根葉ヲ水煎シ服スレハ月水ヲ通ス又生ヲ催シ
又胞衣ヲ下シ又死胎ヲ下ス又小便ヲ能通シ
水腫ヲ治ス又黄疸ヲ治ス又目ヲ明ニス又
面皰ニ葉ヲ絞リ汁ヲ塗レハ能愈ス女人多用ユ

千五十

一フラーガー　ラテン

一ユールベユレユン　シランタ

蛇苺（ヘビイチゴ）

一葉ヲ揉ミ腫物ニ附レハ熱ヲサマス
一實ヲ煎シ含メハ歯ノウキタルヲ堅ム又口中ノ臭氣ヲ去ル又服スレハ瀉ヲ止ム又月水ノ多ヲ止ム又實ヲ生ニテ食スレハ熱ヲ去ル又実ヲランビキニテ煎シ水ヲトリ面ニヌレハ顔色ヲ好ス

千八十七

一ペユトロセリノム　ラテン

一ピイトルセリ　ヲランダ　芹菜（セリ）

一實ヲ細末シ服スレハ小便ヲ通ス又月水ヲ通ス又腹痛ニモ用テヨシ又テリアーカニ合シ服スレハ毒ヲ解ス又小麦麺ニ合シ水ニ和シ附レハ目ノ熱ヲ去ル
一葉ヲ搗砕キ附レハ乳癰ノ堅キヲ和ク

千三百廿八

一ラウリイル　ヲランダ

一ラウルス　ラテン　黒ツヾ

一實性温

一實ヲ搗碎キ蜜ニ和シ胸ノヤケルニ用テヨシ又胸
中ノ滞ヲ解ス又毒虫ノ螫タルニ附テヨシ
又実ヲ搗碎キ酒ニテ服スルモヨシ又實ヲ搗碎
焼酒ニ和シ面瘡（ホヤケ）癜風（ナマツ）ノ類ニ附テヨシ又實ヲ
搗汁ヲ絞リローザノ油酒ヲ入耳ノ痛ニサシ
痛ヲ止ム又耳聾ヲ治ス又實ヲ搗汁ヲトリ
ホルトカルノ油ニ和シ筋ノ引ツルニ附テヨシ
一皮ヲ搗碎キ服スレハ脾胃ヲ強クシ食事ヲ

進ム婦人月水ヲ通ス胞衣不下ニヨシ小便ヲ
能通ス

無花菓（イチジク）

千二百七十一

一ヘイゲボーム　ヲランダ

一ヒートコス　ラテン

一實能熟シテ食スレハ秘結ニヨシ又小便ヲ能通ス
実ヲ乾テモ用ユ胸ノ痛咽ノ痛ニヨシ生ニテ水ニ
煎シ咽ノ痛ニ含テヨシ実ヲ搗碎キ他薬ニ入

ムシ菜ニシテ腫物ノ堅ヲ和ク實モ葉モ擣碎キ

毒虫ノ螫タルニ附テヨシ汁ヲ綿ニ漬シ虫歯ニ

含テヨシ

千四十一

一ペーポン ラテン

一ポンプウン ヲランタ

性冷

南(ホウ)瓜(ブラ)

一煮食シテ小便ヲ利シ又大便ヲユルクス外ニ功用ナシ

延享四年丁卯三月

野呂元丈和解

阿蘭陀外科 ムスクルス

大通詞 嘉福喜藏

小通詞 吉雄幸左衛門

五百十六 阿魏
五百五十 甘草
七百五十八 蕨

千三百七十 安息香
千四百四十九 丁子
千三百七十五 蘓合油

千四百五十六 白檀
蘆薈

戊辰
阿蘭陀本草和解

国立公文書館
National Archives of Japan

五百十六

ゴムアサヘテーダ　無圖

ラテン名

ドイーブルスデレツキ

ラテン名　阿魏

草ノ汁ヲ絞リ堅メタルナリ

一時行病ニ焼テ邪氣ヲ去ル

五百五十

スートホウト

ラテン名　甘草

一根ヲ細末ニシテ痰ニテ胸ノ痛ニ用テヨシ

一痰キリニ製シタルヲドロツプト云

七百五十八

ハトレン　ヲランダ名　蕨

一虫痛ニ根ヲ煎シ用テヨシ

一墮胎ノ薬ニ用ユ

一牛馬ノ打身或膿血出ルニ粉シ附テヨシ

千三百七十

ヘンジエン　ヲランタ名　安息香

スマタラ國シヤム國マラツカ國等ニ生ス枝葉茂リタルモノ也

葉ノ形橘ニ似テ葉ノ裏白シ喬木也刀メヲ入脂ニ吹出ス時採ル

一焼テ邪氣ヲ去ル

一肺熱ニテ息臭ニ含テヨシ

千四百四十九

ナーガル　ヲランタ名　丁子

カリヨヒロリル　ラテン名

バンダム國アンホン國ニ生ス木高カラズ梨橘ホドノモノ也

一花ノ蒂長ク花落テ直ニ堅マリ実トナルナリ

一油ヲ頭痛ニコメカミニ塗テヨシ

一粉ニシテ食料ニ入ル肺氣ヲ助ルト云

一水腫ニ用テ小便ヲ通テヨシ

千三百六十五
ストーラックスリキウドン　蘇合油

千四百五十八
サンドロホウト　白檀

アルウヱ　蘆薈

延享五戊辰年三月

野呂元丈和解

阿蘭陀外科ドードエーフルス
大通詞今村源右衛門
小通詞名村三太夫
小通詞格森山金左衛門

千二百五十　アーマンドルボーム　アメンドス之木

二百八十三　タムローザ　ローザ

ウヱルデローザ　野ローザ

辛酉

阿蘭陀本草之内御用ニ付蘂含和解

千二百五十　アマンドルボーム　アメンドス之木

スートアマンドル　但甘アマンドル之事

ベツトルアマンドル　但苦アマンドル之事

何レモ二色共ニ性温ニシテ燥ク

但木ハ二品有之候得共書面ニハアメンドスノ性二品共ニ
温ニシテ燥クト計有之甘苦ノ差別書面ニ相見へ
不申候

一スートアヘニドル之仁ト皮を去り細ニ搗キ水ニて
煮解ニ候をアヘニドルメルコと申候
但是をアヘニトル之乳汁と申候并ニ熱病ニ用イ
候得者熱を解ニ申候
労咳ノ症ニ用而よし
肺経ノ痛ニも用而よし
一其アヘニトル之仁之油并ニ胸又腹中之痛ニ
新キ油を飲ニ候得者痛を治ニ申候尤量目又何ニ而
用候之儀書面ニ有之
腸腹之内痛候節飲ニ候得者治ニ申候
膀胱ニ砂生し小便不通之節用候得者砂を解ス
疝積之類之痛ニ用而よし
婦人産後腹痛ニも用而よし
右何レモ新キ油を用申候
一五臓之氣滞り候ニ右ノ油を用候得者氣を寛キ申候
一婦人経水滞り候ニ用而よし

一　婦女共ニ小便赤クアリ候ニ用テよし

一　右ノ仁ヲ空腹ニ五ツ六ツ程服候得ハ終日酒ニ酔
　不申候

一　右ノ仁七ツ八ツ細ニ搗蜂蜜ニ交セ犬なとニ喰ハせニ
　付ケ候得ハ毒氣ヲ去リ痛ヲ止メ申候

一　右ノ油ニ蛇虫ヲ七ツ八ツ漬置石淋ノ氣さし有之症ニ
　丹田ニ塗リ候得ハ心能ク小便通シ申候
　　但蛇虫ハ大小有之候又六ハ長サ凡二寸程迄宜候
　　左右ニ長キ足[illegible]ヲ従有之病ニたヘく候[illegible]海老ニ似ク[illegible]
　　有之候尾長キ[illegible]蟹ノ如ク[illegible]
　　頭中ニ打疑ノ有之候

一　右木ノ脂性温
　吐血ニ用テよし
　　但何モ用候ニ申儀書面ニ無之
　石淋ノ症ニ冷キ酒ニテ用テよし

一　小きびノ多キ人ニ脂ヲ酢ニテ解キ付ケ候得ハ自然ニ
　小きび失セ申候此書面ニ有之候得共絶ニ[illegible]不申候

一イタリヤ國ニテ耳アメニドスニ蜂蜜ヲ交セ菓子ニ作リ賣ノ此右ノ菓子瘧疾之者給ヘ候得ハ瘧ヲ治ニノ候

一胃中ニ虫生シ候人ニ苦アヘニドルノ仁ヲ細カニ搗キ水ニテ煮ヘ候而平日用ヒ候得ハ虫ヲ殺ニノ候

一苦アヘニドルノ仁ヲ粉ニシテ食物ニ振リ犬猫鶏杯ニ喰セ候得ハ死ノ候

一右木ヲ焼キ候灰汁ニテ乳巖ノ極悪腫物ヲ洗ヒ候得ハ治ニノ候

二百八十三

タムローサ

ウヱルデローサ

ローザ

野ローサ

一ローザ花ノ水ヲ用ヒ候得ハ心氣ノ滞リヲ寛キ補ヒノ候此ヲ何ニテ用ヒ候も儀書面ニ記之

一身内熱シ候節用ヒ候得ハ熱ヲ冷シ候ノ候熱ノ病ニモ

一用ヒテモ

一菓子なとに右ノ水を加へ焼キ候得ハ匂ひ味ひ共ニ宜敷候

一眼病ニ右ノ水ニ而洗ひ候得ハ眼中ノ熱を解ニすゝしめ
申候尤も外ニ薬ニ交セ合セ眼ノ療治ニ用申候

一秘結之症ニ汁を用候得ハ心能通し申候
但花葉根何レ之汁ニ申儀書面ニ無之尤も多クハ花ノ
汁と推察仕候

一ローザノ蜜を秘結之症ニ用候得ハ能ク通ニ申候
但ローザ蜜ノ拵様 ローザノ花を水ニ漬置花ノ精を
出し其後水花共ニ釜ニ入レ煮解ニ漉ス、又外ニ
砂糖を煮へあくヲ取り候而右ノローザ水ニ合セ煉詰メ
申候を ローザ蜜と申候尤もすくなく候

一并ニ熱ヘ病之節右ノ蜜を用候得ハ熱を解ニ能ク
すゝしめ申候

一ローザノ花を干ニ粉ニして動氣有之症ニ用候得ハ
治リ申候熱而又腕を補ひ申候

一經水多ク出候ニ右ノ粉を用候得ハ能キ程ニめくり申候

一ローザ花ノ油腫物なとの熱ヘ強ク痛ムニ塗リ候得ハ

一 熱を解シ痛を和ケル也

一 ローザノ根を粉にして犬ねこの喰ふ時右ノ粉を用ひ
又喰ふ所ニ付ケ候得ハ痛を和ケル也

一 胸中ノ痛ニ或ハ腹中張リ痛ニも右ノ花を摺り
糊ノやうにして塗リ付るよし

一 秘結ノ症ニ右ノ花を二十枚程生ニて絞り候得ハ能通ル也

一 口中ノ痛ニローザ花ノ水ニ酢を少交セ合ニ候得ハ
臭氣を去リ痛を和ケル也

一 右ノ花を摺り蜂蜜ニ交セ金瘡又ハ常ノ腫物ニモ
付るよし

一 ローザノ葉を煎し痢病ニ用るよし

右者阿蘭陀外科書面之通外科銘々門人江茂相伝可申旨
申候趣和解仕候以上

辛酉
三月

吉雄辰三郎

五百五十三　ねこきつと草
六百八十二　葡萄
八百二十　稲
八百二十一　唐もろこし
九百十八　酸草
九百二十二　菱
九百七十二　赤菜　白菜
千四百十五　インデヤンスヘイゲボーム

阿蘭陀本草之内御用ニ付兼合候和解

一　阿蘭陀本草之内阿蘭陀人江尋合候覚

五百五十三　シンチヤー子

一名　シンチヤンスコロイト

たときさし草

一　毒ニ當り候節早速右ノ根を粉ニして掛目四文匁

葡萄ノ酒ニ而用候得ハ毒を解ニ申候

一　毒蛇ニ喰レ候節茂早速右之通用候得ハ痛を止メ申候

一　脾胃弱ク食物を不請候ニ右ノ根を粉ニして掛目

一 二匁程一日之内朝晩ニ壹度宛水ニ而用ゆへし

一 氣腫類之口ニ右ノ粉を付ゆへし

一 右ノ生根を擂り汁を絞り又腕ノ痛ムニ掛目十匁程
水ニ而用ゆへし

一 右ノ根を水ニ一七日漬置其ニ釜ニ入レ煎し出し其
汁を漉しふらすこ抔ニ入置平日朝一度宛酒ニ加へ
用ゆ得ハ脾胃を強メ食を進メ申候

一 右ノ根を粉ニして掛目十匁程馬之かいらニ水煎く
飲セゆへし

但書面ニハ言葉庭ゆ得共右ノ花未開之時分取ゆ而
池ニ浸し置其花を金瘡ニ用ひ候得ハむすふ而申候

六百八十二　ドロイフ　葡萄

但葡萄之類三通り有之
白葡萄
赤葡萄
薄赤葡萄

右葡萄ニ依り實ハ多ク生ニ而類ハ瘦地ニ植ハ實少ク

生ニ候類ハ肥地ニ植申候能く北を塞キ候へ日當宜キ
所ニ植候得ハ別る實茂大キクして風味宜有之候
芽五六寸ニ成リ候時先キを止メ候得ハ脇ヨリ枝多ク
吹出ニ申候枝若キ方ニ實を多ク生ニ申候葡萄ニ
依リ汁少クして肉多ク有之候ハ實を取リ日ニ干ニ申候
菓子ニ用申候汁多キハ能く酒ニ作リ申候
但菓子ニ用候ハ小葡萄ノ類ニ而御座候

一 蔓性冷也熱有之腫物ニ麦務なしに交せ付ケ候得ハ
熱を解ス

一 葉蔓共ニ煎し痢病ニ用ゐよし

一 日本之四五月之比蔓を切り其切口より水を取り貯置
石淋ニ用候得ハ石を下ニ申候
但書面ニハ右之通有之候得共むすく候き未信ニ
不申候

八百二十　レイスト　稲

イニデヤニ而春之比水田ニ作リ申候但阿蘭陀国ニハ
作リ不申候

一右ハ肉桂アメニドス等分粉ニして砂糖を交セ乳汁ニ而
煮用候得ハ胃精を増ニ候也又粥ニ煮候而病人なとに
用候也書面ニ有之候

一

一

一

八百二十一　スパニスブロート　唐ニ称無し

一名イニデヤンスタルウエ

右之實を干ニ粉ニしてパンなとに拵候得ハ性
不宜候而多ク用不申候也書面ニ相見へ申候

功能書面ニ無之

一

一

一

九百十八　クークスブロート　酸草

一名シスエルカラーブルブラート

一

一 性冷ニシテ燥ク
一 口中腫レ痛ミ臭ヒ悪キ時右ノ根ヲ去リ葉茎ニテ
煎シ度々含ミテヨシ
但常ニ含ミ候得ハ口中ノ臭気ヲ去リ申候
一 右ノ葉茎共ニ葡萄ノ酒ニ漬置キ而咽渇キ候節
飲ミ候得ハ渇キヲ止メ申候

九百二十二 ワートルノート 菱
一 性冷
一 葉ヲ腫物なとに付ケ候得ハ痛ヲ止メ申候
但用様書面ニ御座候
一 實ノ汁ヲ取リロウザ花ノ水なとに交セ眼痛ニ付ヘし
但阿蘭陀国ニ而夏ニ此實ヲ平日給ヘ候得ハ胃中ヲ
すゞしめ申候也 其すくる申候書面ニハ御座候

九百七十二　ローイコール　赤菜
　　　　　ウエツテコール　白菜

右ハ近年大坂花屋邊ニ葉牡丹ト名付申候
阿蘭陀菜ノ一種ニ而赤白共御座候毎日料理ニ
用ひ申候本國ニ而ハ育之カアプニ別而能ク出来申候
塩ニ漬ケ舩中之食用ニ仕候

一 性燥ク

一 痢病ニ右ノ葉を煮其汁を用而よし
一 生葉を細カニ刻ミ酢ニ浸し給へ候得ハ鬱氣を散シ申候
一 生葉を酒ノ肴ニ給へ候得ハ終日酒を給へ候而酔不申候
一 生葉を摺り麦ノ粉を交セ腫物ノかこまりニ付ケ候得ハ早ク
膿ミ申候
一 生葉を摺り汁を絞り鼻穴ニ入込候得ハ頭痛なとに
氣を寛キるよし
一 生葉を摺り汁を絞り葡萄ノ酒ニ交セ煖メ耳不宜ニ

耳中ニ入レ而よし

一 葉ノ煎汁ニ而腫物を洗てよし又古キ腫物之
乳巌之様成を洗てよし

一 莖根ハ黒焼ニしてごまノ油ニ交セ腸腹ノ強ク痛候ニ
擂り付ケ候得ハ和らき申候

一 但十種ハ同様之功能之由（右之外書面之経略薬数）書面ニ相見へ申候

一 総ハ食物之外療治ニ用ひ候儀不承及候由

一 むすび次申候

千四百十五　イニデヤニスヘイゲボーム

右之木枝生し夫枝より蔓ノ様成ものゝ生ニ初メハ
和らかにして下ニさがり地ニ付キ候得ハ根生シ追々盛り
申候木盛へ候ニ付而右之ごとく何程茂出来申候而
一本ニ而森のごとく年数ニ依り凡一里程茂はびこり
申候葉ノ先キハ細ク中ほどより白ク裏ニ毛ノごとく
成もの多ク付キ申候象好ニ食ニ候

實ハ熟し候て赤ク成リ風味柿ニ似申候功能書面ニ
有之
但右之木先年志州國之奥山ニ而見申候
尤一本ニ而枝葉茂リ根生ニ森之様成リ
惣廻リ六七間程方ニ見ヘ申候處むすくろと唱ヘ申候

右者阿蘭陀本草書面之通外科ニ而専ら用ひ候由ニ而
むすくろと唱申候趣和解仕候以上

辛酉
三月

吉雄友三郎

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan